

三重で24年ぶり全国研究大会

かんきつ事例紹介

現地や静岡の生産者報告

全国果樹研究連合会
と三重県園芸振興協会
が主催する「全国カン
キツ研究大会」が30日、
三重県伊勢市で始まっ
た。「目指せ！きらり
と光るかんきつ産地」
をテーマに、各産地の
栽培事例を共有した。
JA伊勢や静岡県のJA
みっかび管内の生産
者らが報告した。

三重県での開催は24
年ぶり。生産者やJA
営農指導員ら約500
人が参加した。

事例発表では、三重
県JA伊勢管内の3・
3鈴で温州ミカンなど
を栽培する、西敏勝さ
んが県育成の「みえ紀

南1号」の高品質生産
実践例を紹介した。樹
勢の安定と収量確保の
ため、JAと連携し
て、堆肥や客土による
冬季の土づくりや開花
期の施肥などに取り組
んだことを説明。同品
種を毎年10ア当たり3
ト収穫でき、同品種の
ブランド「みえの一番
星」の出荷割合は平均
を上回る5割に及ぶと
話した。

JAみっかび管内で
温州ミカン5・5鈴を
栽培する清水厚徳さん
は自身の経営や展望を
話した。「青島温州」
では、貯蔵ロスが多い
ことを課題に挙げ、オ

ゾン発生器や貯蔵性の
高い品種「陽一郎」の
導入を進めたいと説
明。こうした取り組み
で販売単価の高い後期
出荷の安定化を目指す
とした。